

浅沼弘 (Emonument mandala) 1993 年 アクリル・セメント・画布 116.7 x 227cm

ASANUMIA Hiroshi

展

浅沼弘

《会期》2020年3月1日[日] — 4月19日[日]

《入館料》一般 400 [350] 円 / 高校・学生 250 [200] 円 / 小学生・中学生 150 [100] 円 ※ [] 内は 20 名以上の団体料金

《休館日》月曜休館 (月曜日が祝日の場合その翌日)

《開館時間》8:30 ~ 17:00 (入館は 16:30 まで)

《主催/会場》萬鉄五郎記念美術館 〒028-0114 岩手県花巻市東和町土沢 5 区 135 番地 TEL 0198-42-4402 / Fax 0198-42-4405

《同時開催》佐藤清美展 SATO Kiyomi Solo Exhibition 会場/萬鉄五郎記念美術館 八丁土蔵ギャラリー 会期/3月1日—4月19日

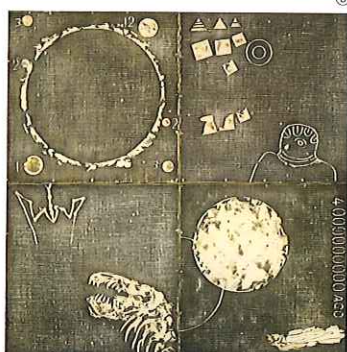
萬鉄五郎記念美術館

浅沼 弘 展 ASANUMA Hiroshi Solo Exhibition

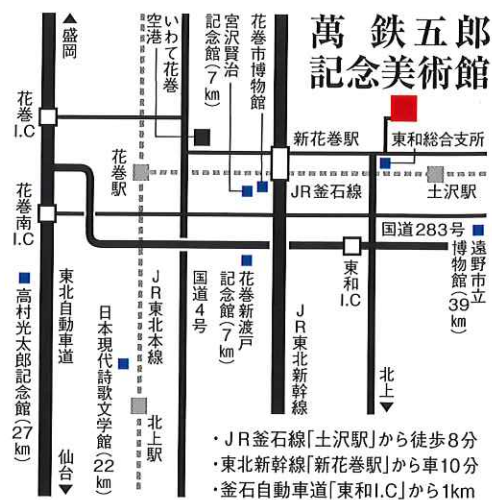
1932（昭和7）年、盛岡に生まれた浅沼 弘（旧姓：佐々木／1932年－2012年）は、戦後まもなく開校した岩手県立美術工芸学校で学び、卒業後は上京し制作を開始します。1953（昭和28）年の独立展初入選を皮切りに、翌年には独立美術賞を獲得し新人画家として頭角を現します。その才能は留まることを知らず、1955（昭和30）年には独立美術協会会友に推挙され一躍注目されることとなります。天性のセンスと巧みなテクニックで具象表現を基にした魅力的な作品を生みだしていった浅沼ですが、60年代に入ると地元での活動に切り替え帰郷します。徐々に前衛的な表現へと移行していき、盛岡の若手画家たちが結成した精鋭美術グループ「集団 N39」に参加。新たな独自世界を模索しながら多彩な表現活動を試みていきます。

萬鉄五郎記念美術館では、1995（平成5）年に浅沼の現況を紹介する自選展を開催しています。当時は「マンダラ・シリーズ」に取り組んでおり、心的な世界観に裏打ちされた抽象表現を試みていました。その後、水彩画の特性を駆使した静謐で情緒性に満ちた抽象描写や裸婦シリーズへと移行していった浅沼ですが、いずれの時代においても完成度の高い絵画表現を構築していったといえます。

本展は、2012（平成24）年に亡くなった浅沼の初の遺作展となります。初期から晩年までの画業の全体像を紹介するとともに、豊かな才能の持ち主であった彼の表現世界を再検証したいと思います。



- ①《静物1》 1952（昭和27）年頃 鉛筆・紙 39.5 × 27.5cm
- ②《顔》 1955（昭和30）年 油彩・板 31.0 × 26.0cm
- ③《裸婦立像》1980（昭和55）年頃 油彩・紙 18.9 × 13.6cm
- ④《作品D》 1989（平成元）年 アクリル・画布 52.5 × 45.5cm
- ⑤《充填的構成より》 1990（平成2）年 アクリル・画布 22.7 × 15.8cm
- ⑥《EL Monument》 1992（平成4）年 アクリル・セメント・画布 65.2 × 53.0cm
- ⑦《EL Monument Mandara》 1993（平成5）年 アクリル・セメント・板 88.8 × 88.8cm
- ⑧《予兆を告げるもの - G》 1998（平成10）年頃 アクリル・画布 90.0 × 90.0cm
- ⑨《CON TRAIL》 2001（平成13）年 グワッシュ・紙 54.0 × 79.0cm



萬鉄五郎記念美術館